

## サービスロボット -世界売上高 39%増、IFR 発表

2018年10月18日 東京- 業務用サービスロボットの売上高は**39%増加**し、**66億米ドル**に達しました。このカテゴリーの総販売台数は**85%増加**しました（**2017年**）。需要が最も高いのは物流システムで、業務用サービスロボットの総販売台数の**63%**、総売上高の**36%**を占めています。サービスロボットは新興企業の主要な参入分野でもあるため、サービスロボットに関する見通しは今後も明るいと考えられます。

これは、国際ロボット連盟（IFR）が発行した**2018年度 World Robotics Report - サービスロボット**にまとめられている内容です。

IFRのGudrun Litzenberger事務局長は以下のように述べています。「売上高に関しては、**2019年 - 2021年の販売予測**によると、業務用分野の累計売上高は約**460億米ドル**になります。これに最も寄与するのが、物流や医療、フィールド向けのサービスロボットです。」

### 業務用サービスロボット- 市場概況

2017年に**69,000の物流システム**が導入されました。これは、2016年の導入数（**26,300**）から**162%**の増加となります。無人搬送車（AGV）が製造分野において**6,700台**、非製造分野において**62,200台**導入され、2016年の無人搬送車の販売台数と比較して**162%増加**しました。物流システムの売上高は、約**24億米ドル**になると推定されており、これは**2016年比138%**の増加となります。

医療用ロボットもすでに定着しているサービスロボットであり、極めて大きな成長の可能性を秘めています。医療用ロボットの総売上高は**19億米ドル**に増加し、**2017年の業務用サービスロボットの総売上高の29%**を占めました。重要性の高い用途としては、ロボット支援手術/治療と、障害を持つ人々が必要な活動を行う手助けをする、または身体機能または認知機能の改善を目的とした治療を行うリハビリロボットが挙げられます。

搾乳ロボットを中心とする**フィールドロボットの売上高は**、業務用サービスロボットの売上の約**15%**を占めています。フィールドロボットのシェアはわずかではありますが**2%減少**し、**9億6,600万米ドル**となりました。**2017年のフィールドロボットの総販売台数は6,375台**であり、総販売台数の**6%**となりました。**2017年の搾乳ロボットの合計販売台数は約5,400台**であり、**2016年の約5,300台**と比べて**2%増加**しました。酪農家の経済的問題により、**2016年に売上は減少**しました。**2017年**も市場ではいまだにこの影響が見られます。農業用ロボット（大規模農業における作物、野菜・果物の栽培、収穫）は市場に根づきつつあります。**2017年の販売台数は2016年の190台**から増加し、**520台**となりました。

## 個人/家庭用 サービスロボット- 市場概況

また、日々の生活において人間を支援するまたは楽しませる個人用サービスロボットの市場は急速に進展しています。売上高は27%増加し、21億米ドルに達しました。2017年に総販売台数は25%増加し、約850万台となりました。掃除機がけや芝刈り、窓掃除などの家事向けのロボットが推定で約610万台販売され、2016年比 31%増という目覚ましい増加を見せました。しかし、IFRの調査はこの分野を完全に網羅したものであるとは言えないため、実際の数字は上記よりも大幅に大きいものである可能性があります。売上高は16億米ドルでした。これは、2016年比30%の増加となります。

長年レポートの作成に携わってきたIFRのサービスロボットグループのMartin Hägeleは、以下のよう述べています。「個人/家庭用用途において、ロボティクスは目覚ましい世界的成長を遂げてきました。床掃除ロボットやロボット芝刈機、そしてエデュテインメント向けロボット（ソーシャルロボットという呼び名が普及し始めている）はますます私たちの生活の一部になってきています。今後の製品開発の方向性は、高齢者支援や家事の手伝い、エンターテインメントのための支援ロボットなど、より精巧な高性能・高付加価値家庭用ロボットの開発を目指すものになると考えられます。」

## 地域別サービスロボットメーカー

ヨーロッパのサービスロボットメーカーは世界市場において重要な役割を担っています。700社強の登録企業のうち約300社がヨーロッパの企業です。メーカー数が250社の北米が2位、130社のアジアが3位となっています。また、サービスロボットサプライヤーの約30%が設立5年以内の新興企業であると考えられ、このことから、ロボティクスのこの進歩が目覚ましい新興分野でのダイナミクスが見て取れます。

ダウンロード用リンク

<https://ifr.org/ifr-press-releases/news/service-robots-global-sales-value-up-39-percent>

## IFR の World Robotics Report について

IFR統計部は毎年ロボティクスに関する2種類の調査の結果を発表しています。

**World Robotics – サービスロボット:** この独自のレポートは、サービスロボットの世界的統計とサービスロボットに関する市場分析、ケーススタディ、国際研究戦略について説明するものです。この調査は当連盟のパートナーであるシュトゥットガルトのFraunhofer IPAと共同で行われています。

**World Robotics – 産業用ロボット:** この独自のレポートでは、産業用ロボットに関する世界的統計を標準化して表にまとめており、国別に比較を行うことができます。本レポートには、応用分野及び産業部門、ロボットのタイプ、その他の技術的側面及び経済的側面で分類した約40カ国の統計データが収められています。主要国については生産・輸出入データを記載しています。ロボット密度（例：関連分野の従業員10,000人あたりのロボットの台数）に関連する動向についても説明しています。

IFRについて

国際ロボット連盟：<https://ifr.org/>

製造地域別 全タイプ（業務用、個人/家庭用）のサービスロボット メーカー数

